



能代宇宙イベント 2010 報告書

WSP (和歌山大学宇宙開発プロジェクト)

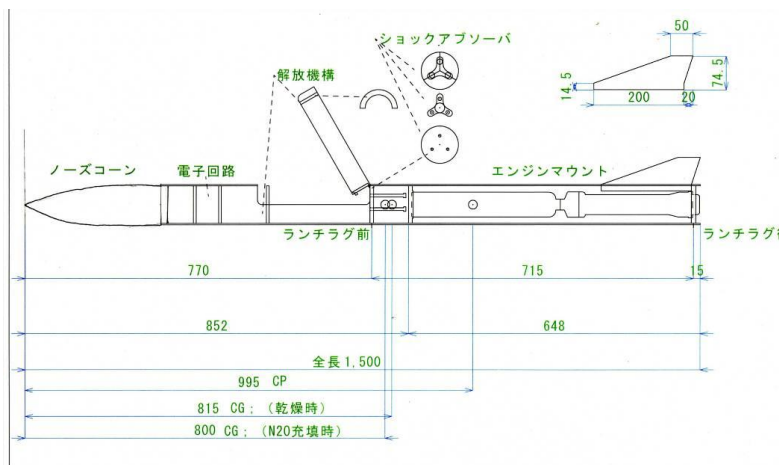
指導教員 秋山演亮

PM 井上真求

○メンバー

- 井上真求 (B3)
- 上原楽 (B3)
- 山本修作 (B3)
- 北浦賢一 (B2)
- 川室裕太郎 (B1)
- 田尻翔汰 (B1)

○機体の紹介



この機体 (KISHU-07) は目標到達高度 400m である。缶サットを搭載しないため、ロケットの径を 89mm と以前の機体よりも 17mm も小さくした。全体のロケットの質量を減らすことができた。



○工夫した点

ノーズコーンにはモデラーを使用し木を加工したものである。フィンには **GFRP** で自作した。また、分離機構は蓋にバネを付け、バネをピンでとめ、蓋を固定し、そのピンをモータで引き抜くような仕組みである。

○苦労した点

メンバーが少なく、スケジュール通り機体の製作が進まなかった。また、搭載機器系の専門がおらず、時間も限られていたため、予定していた搭載機器を製作することができなかった。

○結果

飛翔高度は正確には分からないが、約 **350m** 近く飛翔したと思われる。大空高くきれいに打ち上がり、設定した通りの時間に分離機構が作動しパラシュートが展開した。しかし、パラシュートと機体本体とがゴムで繋いだ部分で切れてしまい、弾道飛行という結果となった。この原因はゴムの使用しすぎによる劣化だと考えている。

○今後の課題

- ・搭載機器系の専門がないため、勉強をする必要がある
- ・メンバーを増やし、技術力やマネジメント力を継承していくこと
- ・機体の使用部品の安全性の確保（ゴムの劣化の問題による）